



2017

今年もよろしく願い申し上げます

理事長挨拶

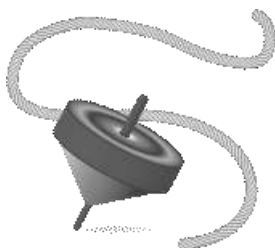
謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

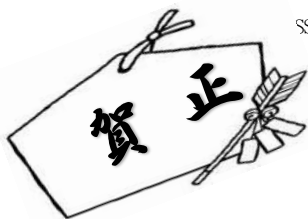
昨年は、新規プロジェクト関連におきまして、関係者の方々には多大なるご支援を頂き、誠にありがとうございました。おかげ様を持ちまして、おかし屋ぱれっと並びに法人事務局移転後は、日常業務において、大変効率よく遂行できております。中でも最大の課題でした家賃の出費においては、渋谷区からの土地の無償貸与もあり、年間1450万円の支出が無くなり、ようやく安定した法人経営に着手できました。念願でありましたおかし屋ぱれっとイートインスペース新設は、ヤマト福祉財団様から多額のご支援を頂き、営業も順調に進んできています。新たな顧客層も増え、徐々に店舗の知名度も上がってきています。新生ぱれっとが掲げた新たな理念として、「地域に根差した拠点づくり」があります。30年以上恵比寿で活動を続けて参りましたが、移転後地元の方々からも、近くなって良かったとご来店頂き、お声を掛けて下さることを嬉しく思います。

新設しぶや・ぱれっとホームにつきましても、新しい入居者の方々も新生活に慣れ、親元を離れての生活に自信を付けはじめています。えびす・ぱれっとホームで課題となっていたバリアフリーに関しても、年齢を重ねた利用者の方にとりましては、今回の新設ユニットは、スロープやエレベータの設置により、建物への出入りも容易になり、トイレや入浴介助においても、利用者やそのご家族が安心できる支援の充実が図られています。

ぱれっとも34年目を迎え、セクションもスタッフも増え大所帯になりました。新規プロジェクトもひと段落が付き、心機一転、新たな展望を見据える時期となります。福祉業界は企業参入も顕著となり、サービス支援提供の競争並びに人材の確保が益々厳しい時代となってきています。喫緊の課題は、スタッフの確保と人材育成です。日々の業務における「気付き」といった身近なテーマでの勉強会もスタートさせました。仕事の中での「共有・共感」は、人間関係における潤滑油となります。スタッフの組織への帰属意識や強いモチベーションを保つには、安定した雇用に向けての労働条件整備が必須です。通所員や利用者の方への支援・サービスの質の向上は、スタッフのスキルも問われます。お互い信頼関係を築きながら、如何に効率よく仕事を進められるかが、今年のテーマとなります。

(認定NPO法人ぱれっと 理事長 相馬宏昭)





各事業からご挨拶

ぱれっと事務局▶

明けましておめでとうございます。昨年は大きな節目の年となりました。新しいビルの建設、移転、新規事業の立ち上げと目まぐるしくも充実した一年であったと思います。私個人としても、長年関わってきたぱれっとの大きな転換期に事務局長という大役を担って職務を遂行出来たことを大変誇らしく感じると同時に、改めて会員の皆様始め多くの方々のご支援あればこそ、と心より感謝しております。

一方、地元渋谷区を見てみると、法制度の枠内では解決し得ない課題が山積しています。また、ひとつの分野の中だけではおさまらない問題も多々見受けられます。これからの新たなコミュニティ作りに向けて、行政、企業、他団体、異分野の皆さんともネットワークを結び、「皆が当たり前暮らせる社会」を目指して今年一年がんばります。
(事務局長 南山達郎)

たまり場ぱれっと▶

皆さま、お正月はいかがお過ごしでしたでしょうか。明けましておめでとうございます。昨年は数多くのたまり場行事が開催され、たくさんの方々に参加頂きました。それぞれのイベントにおいて、大きなケガや事故等もなく無事終えることができたこと、これもひとえに、ご協力くださった多くのボランティアの皆さま、親御さまのおかげであると心より感謝しております。また、ぱれっとの拠点が新設、移転となった昨年の7月。そんな大きな節目のタイミングで、私自身新しくスタッフとして関わることになり、目まぐるしい日々の中でさまざまな人たちと出会い、ふれあい、大変貴重な経験をさせて頂きました。今後も地域の皆さまと広く且つ深い関係を築き、楽しんで頂ける余暇活動を創り上げていく所存です。2017年もどうぞよろしくお願ひ致します。

(職員 吉岡悠真)

おかし屋ぱれっと/工房ぱれっと▶

明けましておめでとうございます。去年は7月に店舗が移転し、おかし屋ぱれっとの新たな幕開けとなった年となりました。地元の恵比寿周辺の企業様との新たなつながりができたのも、ひとえにおかし屋ぱれっとを支えて下さる皆様のお力があってこそだと感じております。今年もメンバーと協力し合いながら、おかし屋ぱれっとの美味しい商品をお客様にお届けできるよう頑張っていきたいと思ひます。(職員 松本亜沙子)

工房ぱれっとは昨年、浅草や地元渋谷区でのイベント・都庁内常設ショップ・マレーシアでの展示等、人の目に触れる機会に多く恵まれ、お客様からの確かな手応えを感じられた飛躍の年でした。活躍の場を頂き感謝いたします。背景には、事業所移転を経ても揺るがず日々の仕事に熱心に取り組んできた通所員の頑張りがありました。今年も一同楽しく製品作りに取り組んでいきます。よろしくお願ひします。(職員 玉井七恵)



えびす・ぱれっとホーム/しぶや・ぱれっとホーム▶

明けましておめでとうございます。8月にしぶや・ぱれっとホームが、9月に短期入所が新たにスタートしました。新生活が始まった当初は、期待と不安が入り混じっていた入居者も徐々に緊張がほぐれ、それぞれの生活スタイルができつつあります。一方で実際にスタートして感じる現場の忙しさは、これまでの比ではありませんでした。充分とは言えない職員体制の中、8名の職員が暮らしの安定に向けて無我夢中で取り組んできました。少しずつ全体の流れや運営面が整理され、スタート地点に立つことができたと感じています。この間、代替えアルバイトや料理ボランティアの多大な協力や応援に支えられ、周りの皆さんの声掛けや笑顔が入居者や職員の気持ちにゆとりを与えてくれました。「生活に広がり生まれている」と嬉しい反応が寄せられる中、皆さんと共に成長していきたいと願う年の初めです。(えびす・ぱれっとホーム 菅原睦子)

ぱれっとインターナショナル・ジャパン (PIJ) ▶

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく願いいたします。

国外への支援・交流を目的とするPIJは、特にアジアの国々との繋がりが以前にも増して深まってきました。海外からの訪問者も色々な国に広がっています。「障害児の教育の充実に比して教育期間後の社会での障害者の自立が課題です」というモンゴルからの見学者の切実な声は強く心に響き、PIJの役割を再認識させられています。

昨年に引き続きマレーシアの団体からのお誘いで9月のイベントの参加が決まり、ぱれっとでは既に準備が始まっています。そして、11月にバングラデシュで開催される「アジア知的障害会議」の参加も検討中です。障がい者の発表テーマに期待がかかります。

今年も、ぱれっとで働く障がい者が海外で活躍する一年になりそうです。

(PIJ 代表 谷口奈保子)

ぱれっとの家 いこっと▶

明けましておめでとうございます。昨年はいこっとは、いこっとサポートの会(運営委員)にぱれっとの理事を加え、入居者募集にむけた意見交換の場を設けました。いこっとの特徴や広報先の拡大など、その後の議論につながる足がかりとなりました。いこっと入居者ミーティングでは、災害対策として必要な物品を備えるため、入居者同士で話し合ってきました。自分たちの身を守るために何を準備すればよいのか、調べたり意見を交わすうちに防災に対する意識が強まっていくのを感じました。年の初めには「ぱれっとの家 いこっと」の特集をぱれっとつうしんで2回にわたり取り上げるようになりました。サポートのメンバーが、忙しい仕事の合間を縫って集まり、紙面構成や文章を作成しました。あとは、新しい入居者との出会いを待つばかりです。

(菅原睦子)